

### 木の中に潜んでいます

先日、全国ニュースにて、福島県でサビイロクワカミキリという種が日本で初めて発見されたとの報道がありました。富山でも、樹木医の方々により、モクゲンジ並木にてツヤハダゴマダラカミキリが発見され、対策が検討されています。今回は、最近何かと話題なカミキリムシについてご紹介します。

SGニュースでおなじみのカミキリムシといえば、マツノザイセンチュウ病（通称“マツ枯れ”）の原因であるマツノザイセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリです。こちらは主に媒介者として駆除対象となりますが、“カミキリムシ”は、それ自体が木を枯らしてしまうこともある、やっかいな虫です。

カミキリムシによる被害は、主に幼虫が材部分を食害し、植物内部に空洞ができて通水や養分の移動が妨げられることで、木が枯れてしまうものです。

カミキリムシの生活史ですが、春から夏にかけて、雌成虫は交尾後、樹皮下に卵を産みつけます。卵は産卵後、半月以内に孵化（25℃においた場合）し、幼虫は樹皮の内側を摂食しながら枝や幹の中心部に移動します。このとき、幼虫は食べた木くずと虫糞の混合物であるフラスを排出するための排出孔を作ります。フラスの排出は、被害木発見の鍵であり、特に夏の暑い時期に盛んになります。幼虫が生木・衰弱木・枯木のどれを好むかは種によって異なり、中には草本植物を宿主とする種もあります。

幼虫でいる期間は種によって様々で、短いものは2ヶ月ほどですが、中には10年以上のものもいるそうです。幼虫は植物内部で脱皮を繰り返して大きくなっていきます。

越冬については、幼虫で越冬する種と成虫で越冬する種の大きく2タイプ分けられます。幼虫で越冬するタイプは翌年（もしくは数年後）の春、植物内に蛹室を作り蛹化し、そこで羽化して成虫となり、植物から脱出していきます。成虫で越冬するものは、秋に蛹化し植物内で羽化します。その後は、そのまま植物内に留まり春に脱出する種と、秋のうちに脱出し、枯木や枯葉にとまって越冬する種があります。成虫で越冬する種でも、幼虫期間が数年に及ぶものは、幼虫で数回越冬した後、最後の冬のみ成虫で越冬します。また、基本的に成虫は1シーズンの繁殖を終えると死んでしまいます。

近年話題になっているカミキリムシといえば、クビアカツヤカミキリ（体長：2～4cm、成虫出現：5～8月、後食なし、被害樹種：バラ科の生木）です。元はベトナムからロシアまで、広く分布しており、中国ではモモ類の害虫として広く知られています。2011年に埼玉で発見され（被害は確認されず）、2012年には愛知でサクラやウメの被害が確認されました。2019年の時点で、関東～関西、四国の11都府県で被害が確認されており、2018年には**特定外来生物**に指定され、飼育や運搬などは原則禁止されています。

▼クビアカツヤカミキリ（埼玉県環境科学国際センターより）



▲サビイロクワカミキリ（福島民報より）

▲ツヤハダゴマダラカミキリ（Wikipediaより）

今回福島県で発見されたサビイロクワカミキリ（体長：3～5cm、成虫出現：6～8月、後食あり、被害樹種：エンジュ等の生木※一部クワカミキリのデータ）は、元は中国南部に生息しており、中国では“エンジュキラー”として知られているそうです。

また、富山のモクゲンジで確認されたツヤハダゴマダラカミキリ（体長：2～3.5cm、成虫出現：5～10月、後食あり、被害樹種：ポプラ類、カエデ類、ニレ類、ヤナギ類、ナシ、リンゴ等の生木、多食性）は、元は中国や朝鮮半島（中部以北の冷涼な地域のみ）に分布しており、1990年代から北米で被害をもたらし、**世界の侵略的外来種ワースト100**に選定されています。中国でも、1970年代後半に始まった大規模植林地で被害が広がっているようです。これらの3種とも、輸入した木材や梱包材等にまぎれて侵入したと考えられています。

防除方法としては、**成虫**については①**薬剤散布**、②**生物農薬であるボーベリア菌の利用**、後食をする種については③**成虫発生時期に後食される樹種へ薬剤散布**、④**被害木の幹をネット（成虫が脱出できないもの）で覆い、定期的に見回ってネット内の成虫を捕殺**するなどの方法が挙げられます。**幼虫**については、⑤**フラスの排出孔から針金などを差し込んで捕殺**する、または⑥**排出孔への薬剤注入**がありますが、樹木内部の幼虫を完全に駆除することは難しく、5ヶ所以上からフラスの排出がある場合は、⑦**伐採・伐根して成虫が脱出してくる前に焼却またはチップ化**（幼虫より小さい大きさ、5mm以下）することが大切です。

## 製品紹介

### マツグリーン液剤2

低薬量で優れた効果！環境に優しく匂い・汚れも少



- 低薬量で優れた防除効果を発揮します。
- 浸透性に優れ、樹皮や樹内で安定し、耐雨性にも優れるため、効果が長期間持続します。
- 環境中への残留が少なく、他の生物や作物への影響も少ない薬剤です。
- 匂いや汚れがほとんどなく、取り扱いやすい剤です。



■有効成分：アセタミプリド 2.0%  
■毒性：普通物  
■包装：1L/本、12本入り/ケース  
 10L/缶

➤ 蚕に対しては長期間の毒性があるので飛散に注意してください。

作物名	適用害虫名	使用時期	希釈倍率	使用液量
まつ (生立木)	マツカレハ	幼虫発生前から 幼虫発生期	100~250倍	3L/本 (樹高10m)
	マツノマダラカミキリ成虫	成虫発生直前から 発生初期	60~100倍	
			成虫発生初期および 発生最盛期直前	10倍

※一部のみ記載、詳しくはパンフレット等を御覧ください

### スミパイン乳剤

### 森林害虫・緑化樹の害虫に広く使用可能



■有効成分：MEP 80.0%  
■毒性：普通物  
■包装：10L/缶

- 森林害虫・緑化樹の様々な害虫に効果があります。
- 有機溶剤不使用
  - アルカリ性の薬剤との混用は避けてください。
  - 他の生物・作物にかからないよう注意してください（特にヒノキ、コケ類、蚕、ミツバチ）。
  - 自動車・壁などの塗装面、大理石・御影石にかかると変色の恐れがあるため、かからないよう注意してください。

作物名	適用害虫名	使用時期	希釈倍率	使用液量
樹木類	カミキリムシ類 (スギカミキリを除く) ゾウムシ類、キクイムシ類	成虫の発生時期 または直前	50~150倍	300~600ml (樹皮表面積1㎡当り)

※一部のみ記載、詳しくはパンフレット等を御覧ください

### ダイリーグ粒剤

### ゲンバウムシ・アブラムシに カミキリムシにも



■有効成分：アセタミプリド 1.0%  
■毒性：普通物  
■包装：1.5kg/袋、12袋入り/ケース

- 株元に散布するだけなので、処理が簡単です。
- アブラムシ類、ゲンバウムシ類に高い効果があり、長期間効果が持続します。
- ミツバチに影響が少ない薬剤です。
- 臭いが少なく、扱いやすい剤です。
- 蚕に対しては影響があるので飛散に注意してください。

➤ 花き類・観葉植物に使用する場合、幼苗期の使用では薬害を生じる恐れがあるため使用しないでください。

作物名	適用害虫名	薬量/10a	使用時期	使用方法
つつじ類	ゲンバウムシ類	6~12kg	発生初期	株元散布
さかき	アブラムシ類	12~30kg		
	サカキブチヒメヨコバイ	30g/㎡		
しきみ	ゲンバウムシ類	12kg		
クロトン	アブラムシ類	12~30kg		
かえで	カイガラムシ類	30kg		
	ゴマダラカミキリ	30g/㎡		
樹木類 (つつじ類、しきみ、クロトン、かえで、さかきを除く)	アブラムシ類	12~30kg		
花き類・観葉植物		1g/株		

取扱い・お問合せは—